

鷗朋会 ニューズレター

【第13号】 2018.10

HOME COMING DAY 2018

大阪府立大学 ホームカミングデーのご案内

白鷺祭 最終日

11.4(日)9:45~

場所 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

内容 第1部：記念講演会（無料）

会場：学術情報センター大ホール（Uホール白鷺 C5棟）

9:45~10:00 辻 洋 学長 挨拶

10:00~10:50 香川 佳之氏 トヨタ自動車株式会社 常勤監査役(工学部機械工学科 1983年卒)
講演「電動化・知能化・情報化によるクルマの変革」

10:55~11:45 橋爪 紳也先生 大阪府特別顧問 /大阪市特別顧問
府立大学研究推進機構教授/府立大学観光産業戦略研究所長
講演「博覧都市大阪 1970年 大阪万博から 2025年国際博覧会に向けて」

第2部：ウェルカムパーティー（会費 3,000円）

※参加申し込みは、締め切らせていただきました。

会場：体育館内特設会場（C2棟）

12:15~14:15 ビジネスアイデアコンテスト表彰式 学生による研究成果の一例紹介
応援団演舞 エヴァコールによる学生歌などの合唱ほか
併設展示：各種団体（地域同窓会ほか）卒業生の活動紹介
クラブ（つばさ基金による支援御礼）など

司会（第1部・第2部）：後藤まみさん 第5代堺観光コンシェルジュ（2016.7~2018.6）
（地域保健学域 看護学類 2018年卒）



修士論文ならびに卒業論文のテーマ

修士論文（博士前期課程）

(指導教員)

足達 美奈	(片山)	小型ハードチェーン艇の横波中横揺れに関する研究
大牟田 瑞貴	(片山)	水中翼付き滑走艇の推進性能に関する研究
勝部 誠	(片山)	滑走艇の波浪中航走時衝撃加速度低減のための船型開発手法に関する研究
河尻 義貴	(柴原・生島)	修正コンター法の提案と実構造物の残留応力測定
木谷 悠二	(柴原)	船舶外板線状加熱時における任意形状製作に関する力学的研究
木村 暁	(二瓶)	スパー型風車と一点係留ブイの2浮体連成運動に関する研究
澤江 智央	(片山)	高速航走する滑走艇の横揺れ減衰力鉛直揚力成分に関する研究
前田 新太郎	(柴原・生島)	力学および冶金学に基づく溶接高温割れ評価法の提案
増田 伊織	(中谷)	最適変換法を用いた多変量データの因子間の関係抽出手法に関する研究
松宮 大樹	(柴原・生島)	溶接残留応力を考慮した特性テンソルに基づくき裂進展解析
水井 貴士	(坪郷)	試験水槽における設計不規則波の造波法と最大縦曲げモーメント計測について
渡辺 章義	(二瓶)	水域環境調査ロボット船の開発及び推進抵抗・操縦流体力に関する研究

卒業論文 (指導教員)

足立 俊哉	(片山)	滑走艇の横揺れ減衰力特性に関する実験的研究
岡崎 和弘	(新井・中谷)	実海域における流速鉛直分布の可視化計測に関する基礎的検討
越智 健斗	(馬場)	重力流先端部の分離に関する研究
河下 雄紀	(中谷)	自由記述データを用いたテキストマイニングによる沿岸域の将来像策定のための要素分析
北内 輝樹	(馬場)	重力流の発達段階におけるエネルギー変換についての検討
久米 貴大	(二瓶)	四胴船における推進抵抗に関する研究
後藤 達彦	(山崎)	コバルトリッチクラスト基盤岩を利用したリン資源供給の基礎的経済性検討
竹内 梨乃	(柴原・生島)	金属 3D プリンタを用いた積層造形時の変形解析
橋本 和樹	(二瓶)	一点係留された浮体式洋上風車の風・流れ共存場における安定性及び風追従性能に関する研究
畠中 浩行	(片山)	滑走艇の操縦運動推定法に関する研究
前川 真奈海	(柴原・生島)	AI を用いた線状加熱の自動化に関する基礎的研究
前田 章吾	(山崎)	海底熱水鉱床採鉱作業における鉱石の単純選別の可能性検討
南埜 智之	(有馬)	密度差エンジン水中グライダーの実現可能性の検討
小田 大希	(坪郷)	大積載量コンテナ船のマルチハルの可能性について一抵抗性能面からの検討一
武村 賀幸	(坪郷)	船体表面形状データから船体ハル構造を梁フレーム構造にモデル化する方法について
浦 圭佑	(有馬)	海洋航空宇宙連携による自律型海中ロボット探索システムの構想
小川 恵実	(中谷)	複雑な因果関係を持つ多変量データに対する最適変換法の適用に関する基礎的調査
白木原 健人	(新井)	超音波流速計を用いた太平洋クロマグロの仔魚の計測方法の検討
百枝 良輔	(柴原・生島)	板継溶接時の溶接変形に関する力学的検討
熊本 開	(新井)	誘電正接を用いた海水溶存物質の濃度計測における基礎的検討
重森 康佑	(有馬)	表情の画像解析と生理計測による緊張ストレス状態の推定評価
山本 裕介	(片山)	リングフィン型姿勢安定装置付きスパーブイの運動特性

各賞受賞者

河尻 義貴	海洋システム工学分野最優秀論文賞	日本船舶海洋工学会奨学褒賞
足達 美奈	海洋システム工学分野優秀論文賞	
橋本 和樹	海洋システム工学課程最優秀論文賞	日本船舶海洋工学会奨学褒賞
竹内 梨乃	海洋システム工学課程優秀論文賞	白鷺賞
前川 真奈海	海洋システム工学課程優秀論文賞	

2017 年度卒業生就職先一覧

大学院前期課程修了

足達 美奈	(株)商船三井
大牟田 瑞貴	本田技研工業(株)
勝部 誠	三菱重工業(株)
河尻 義貴	ジャパンマリンユナイテッド(株)
木谷 悠二	大阪大学大学院博士後期課程
木村 暁	日産自動車(株)
澤江 智央	三井造船(株)
前田 新太郎	大阪大学大学院博士後期課程
増田 伊織	(株)P F U
松宮 大樹	J F E スチール(株)
水井 貴士	トヨタ自動車(株)
渡辺 章義	三菱重工業(株)

学部卒業

足立 俊哉	府大院進学
岡崎 和弘	府大院進学
越智 健斗	高砂熱学工業(株)
河下 雄紀	(株)OGCTS
北内 輝樹	近畿運輸局

学部卒業

久米 貴大	府大院進学
後藤 達彦	府大院進学
竹内 梨乃	府大院進学
橋本 和樹	府大院進学
畠中 浩行	府大院進学
前川 真奈海	府大院進学
前田 章吾	大和証券(株)
南埜 智之	川崎汽船(株)
小田 大希	ダイハツ工業(株)
武村 賀幸	N K
浦 圭佑	JFE アドバンテック(株)
小川 恵実	シャープ(株)
白木原 健人	トヨタ自動車(株)
百枝 良輔	府大院進学
熊本 開	ダイキン工業(株)
重森 康佑	スズキ(株)
戎野 共紀	今治造船(株)
東 賢治	日立造船(株)
山本 裕介	府大院進学

事務局からのお知らせ



▶ 会費納入のお願い

2018 年度の会費納入をお願いいたします。同封の振込用紙をご利用いただくか、りそな銀行、郵便振替口座にご送金ください。年会費は、2,000 円です。なお、すでに会費を納入いただいている方には請求書を同封しておりません。御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

▶ 原稿募集

寄稿を随時募集しています。テーマは、自由です。

また、「鷗朋」に挿入するイラストや表紙絵、写真や絵画など自作品も募集しています。

船舶動揺試験水槽に関する情報提供のお願い

鷗朋 編集委員長 三宅 成司郎(大学30期)

ニューズレター11号でお知らせ致しましたが、初代の船舶動揺水槽が昭和22年に完成して71年、また現在稼働中の船舶動揺水槽も完成から61年の年月が経つとのことです。この水槽において、多くの学生がいろいろな研究を行い、多くの思い出を綴ったことと思います。節目の年は過ぎましたが、これを機会に水槽の歴史をまとめておく必要があることは、ニューズレター11号においてお知らせしたとおりです。その手始めに、右のような船舶動揺水槽年表が作成されました。誌面が限られており、小さくて不鮮明ですみません。詳しくは、片山研究室のホームページの「第8回ホームカミングデー」をご覧ください。

さて、ニューズレター11号にて、『水槽での思い出話等をお寄せ下さい。』とお願いしました。今までにお寄せ頂きました貴重な情報については、次号の鷗朋にとりまとめて紹介させていただきます。

以下、重ねてのお願いです。例えば、手元にお持ちの水槽に関する技術資料や水槽における逸話や伝承・水槽伝説などを鷗朋会事務局まで、どしどしお寄せ下さい。(以上)

船舶動揺水槽年表 祝70周年

水槽実験
平野道氏(大学3期)より

「水槽実験、まかりならぬ」³⁾
S29年7月に水槽入口の原に岩佐先生の筆跡の貼紙。岩佐先生から田口先生の研究の手伝いの命令のもと、課題「消波装置の性能実験」にて既製の波高計などなく、波高計は自作、記録機は電気工学科より借用した。自作の波高計は抵抗式波高計、センサーは直径6mmの銀メッキした真鍮パイプ2本を数センチ間隔で固定、この間の水位変動による水抵抗の変化を電圧で知るものであった。センサー部分は抵抗でブリッジを組み、真空管増幅器で恐ろしく光学長の長い電磁オシロに波高を記録するものであった。苦勞の末、夏休み前に3

チャンネルを組み上げた。真空管増幅器は安定するのに30分以上かかり、やっと安定しても固定抵抗に息を少し吹きかけただけでふらつく。昼間は電源ノイズも多く夜間のほうが安定するため、実験は夜間になる。

歴史堂まじりに壁に向かって大声を出したらうらうらと他学科の先生に密着され上記貼紙の次第となった。その後はぶつぶつ言いながら、それでも仕方がないので全員難波のミュンヘンで鬱憤を晴らした。そのビールがうまかった。今でも覚えていて。

S17 1942年3月25日 大阪工業専門学校 造船学科増設

S24 1949年4月1日 浪速大学 設置

S28 1953年3月31日 船舶動揺水槽竣工
全長32m、幅3m、深さ1.6m
造波機：フラップ式
消波装置：消波板、再壁に藤原利用

S35 1960年11月 水槽上風洞増築⁴⁾
高さ0.5m、幅2m、最大風速13m/s
風はプロペラ送風機によって水槽の横方向から吸込まれ、直角に曲がった風路を通り長さ方向へしぼられつつ吹出される

1942年 1947年 1949年 1952年 1953年 1954年 1955年 1957年 1960年 1972年

水槽年齢 0歳 2歳 5歳 6歳 7歳 8歳 10歳 13歳 25歳

S22 1947年11月 初代 船舶動揺水槽完成¹⁾²⁾
S20年11月計画、S21年3月設計完了
全長10m、幅3m、深さ1.9m
造波機：フラップ式
消波装置：斜面及び藤原(入手困難のため竹枝に変更)
従来の造波機では規則波のみの生成であったが、特に流体力学的に可能な合成波も可能な設計に
全経費：80万円(当時)

S27 1952年 船舶動揺水槽第1期工事²⁾
鉄筋3階建の新舎舎が完成、移転に伴い、新設

S30 1955年10月1日 大阪府立大学と改称

S32 1957年10月30日 船舶動揺水槽増築(第2期工事)完成²⁾
全長70m、幅3m、深さ1.6m
水槽全長：32m → 70mへ

S47 1972年12月1日 回流水槽完成

S24 1949年4月1日 浪速大学 設置

S22 1947年11月 初代 船舶動揺水槽完成¹⁾²⁾
S20年11月計画、S21年3月設計完了
全長10m、幅3m、深さ1.9m
造波機：フラップ式
消波装置：斜面及び藤原(入手困難のため竹枝に変更)
従来の造波機では規則波のみの生成であったが、特に流体力学的に可能な合成波も可能な設計に
全経費：80万円(当時)

S27 1952年 船舶動揺水槽第1期工事²⁾
鉄筋3階建の新舎舎が完成、移転に伴い、新設

S30 1955年10月1日 大阪府立大学と改称

S32 1957年10月30日 船舶動揺水槽増築(第2期工事)完成²⁾
全長70m、幅3m、深さ1.6m
水槽全長：32m → 70mへ

H24 2012年 大阪府立大学「学域制」導入

H19 2007年 水槽アルミサッシへ

H29 2017年12月 水槽の可変水底 製作及び設置予定
110cmの上げ底を作成し、40cmの水深で実験が可能に

1992年 1993年 2002年 2006年 2007年 2010年 2012年 2015年 2017年 2024年 2047年

45歳 46歳 55歳 59歳 60歳 63歳 65歳 68歳 70歳 77歳 100歳

H5 1993年 海洋システム工学科に改称

H14 2002年 水槽上屋根修繕(瓦から軽量スレートへ)

H22 2010年 造波機、曳航電車改修、水槽内壁修繕

H18 2006年 水槽空調設置

H27 2015年 消波ビーチ改修、B4棟に移転

2024年 水槽上屋改修? ?
OB.OGの方々をはじめ、海洋システム工学科の関係者のご尽力により、2階建の上屋へと改修
通路も幅広になり、歴代の模型船をはじめ、これまでに使用された実験模型などの展示が可能に

編集後記

鷗朋 編集委員長 三宅成司郎 (大学30期)

今年の夏は、6月18日に発生した大阪府高槻市を震源とする大阪府北部地震に始まり、各地に生じた集中豪雨や逆走台風・猛烈台風の上陸、9月6日に北海道胆振地方中東部を震源として発生した北海道胆振東部地震、と2ヶ月あまりの間に日本中至る所で大きな災害が起き、多くの方々が被災されました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。大阪府立大学も、台風21号の暴風の影響により西門(旧農学部門)付近の大きな木が倒れて、排水溝を塞いでしまったことで西門周辺が浸水したと聞きました。とにかく、今秋はのんびりした穏やかな日が続くことを切に望みます。

(終)

鷗朋会(けきほうかい)

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
大阪府立大学大学院工学研究科 海洋システム工学分野気付
http://www.marine.osakafu-u.ac.jp/~alumni/
E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp
TEL/FAX: 072-254-7461

■ 鷗朋会ニューズレター 第13号

発行日/2018年10月20日